

# 令和6年度 徳島県教育会研究主題

## 研究主題

### VUCA時代を乗り越え、心豊かにたくましく生き抜く『人財』の育成 — 未来へつなぐ教育環境を創造し、一人一人のウェルビーイングを高める教育の推進 —

## 主題設定の趣旨

人口減少や高齢化、DX（デジタルトランスフォーメーション）などの技術革新やグローバル化、地球環境問題などが進む変化が激しい現代は、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代と称される。そして、先行き不透明で将来の予測が困難な時代を迎えようとしている。

このVUCA時代を生きていく子供たちには、予測困難な時代に向けて、望む未来を自分自身で見出し、作り上げていく力が求められる。令和5年3月の中央教育審議会\*<sup>1</sup>では、今、学校で学ぶ子供たちが社会の中心になって活躍する2040年以降の社会を見据え、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」を掲げている。それは、「一人一人の多様な幸せ」とともに「社会全体の幸せ」でもあるウェルビーイング(Well-being)\*<sup>2</sup>を指している。こうした社会の実現に向けて、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓かなければならない。予測が困難な時代において、自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことの重要性が示されている。

また、そのための基本施策として、新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の理解、実施が求められている。現行の学習指導要領\*<sup>3</sup>にある、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に活かそうとする『学びに向かう力・人間性等』」は、まさに予測困難な社会を生きていく子供たちが獲得すべき資質・能力である。これらの資質・能力を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要である。また、子供たちの発達や学びは連続しており、幼稚園段階から小学校・中学校・高等学校の段階を通して、これらの資質・能力をバランスよく育成していかなければならない。

私たち教職員は、新しい時代に求められる教育の流れを念頭に置き、学校教育の重要性を再認識し、これまで行ってきた教育活動を改めて振り返るとともに、未来の創り手となるために必要な資質・能力を子供たちに育むことのできる教育に取り組まなければならない。そして、子供たちが、夢を抱き、自らの行動によって未来を切り拓いていくための「生きる力」を身につける場と機会を創出することが重要である。

予測困難な時代に向けて、このVUCAの時代を生きる子供たち一人一人が、個性・能力を生かし、他者と協働しながら、心豊かにたくましく生き抜くための力を育み、ウェルビーイング(多面的で持続的な幸せ)を高める教育活動が、すべての学校園で行われることを願って、本主題を設定した。

---

\*<sup>1</sup> 次期教育振興基本計画について〈答申〉(2021.3.8) 中央教育審議会

\*<sup>2</sup> ポストコロナ期における新たな学びの在り方について〈第十二次提言〉(2021.6) 教育再生実行会議

\*<sup>3</sup> 文部科学省公示の各校種の学習指導要領(2017.3及び2018.3)、幼稚園教育要領(2017.3)、厚生労働省告示の保育所保育指針(2017.3)、内閣府告示の幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3)